

農作物の生育状況、今後の見通しと対策(6月)

| 作物名   | 生育状況   | 今後の見通しと対策   |
|---|--|---|
| 作物  | <p><b>水稲</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・飼料用及び一部の大規模農家・法人等を除き、概ね田植えは終了した。</li> <li>・田植えが遅れている大規模経営体も、6月下旬に概ね終了する見込み。</li> <li>・春先の好天によって、耕うん作業等は順調に進んだが、水利事情による用水量不足の影響で、代かきが遅れることで田植えが遅れる例が散見される。</li> <li>・著しい湯水は見られないが、用水量が元々少ない地域では、田植え後の湛水が遅れる場合が見られた。</li> <li>・一部で、水位不足によって雑草多発が見られるが、除草効果は平年並の様子である。</li> <li>・中山間・山間地の一部で、低温による活着不良や葉先枯れが散見されたものの、田植え後に回復傾向にある。しかし、日照不足や一時的な低温により、達観の分けつはやや緩慢な印象である。</li> <li>・スクミリンゴガイの発生地域では貝が確認されているが、対策管理の徹底により大きな被害は見られない。</li> <li>・一部でイネミズゾウムシの被害が散見され、成虫が現認されているが、その他の目立った病害虫は発生していない。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・茎数増加を促すため、昼間の止水浅水管理を徹底する。</li> <li>・目標茎数確保後は、品種特性に応じた中干しを行う。</li> <li>・雑草繁茂ほ場では、中後期除草剤などにより、雑草防除に努める。</li> </ul>  |
|   | <p><b>麦</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・倉吉市のビール麦は6月1日頃から収穫が始まり、好天によって比較的短期間で収穫が終了した。平均反収は現時点で不明だが平年並の見込み。</li> <li>・北栄町のビール麦も6月9日には概ね収穫を終了したが、11月下旬以降に播種したほ場が一部残っており、今後、梅雨の晴れ間で収穫予定。今年度、防除対策の徹底によって赤かび病の発生は目立たなかった。</li> <li>・小麦は6月上旬から収穫が始まっている。「ミナミノカオリ」から順次収穫が進むが、梅雨入り前に収穫したい意向によって、「はる風ふわり」を6月上旬に刈取った事例もあった。播種時期が遅いほ場や「銀河のちから」のような晩熟品種の順に収穫作業が進む見込み。現時点で赤かび病の目立った発生は見られず、適期刈取と選別・調製によって品質維持を徹底する。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・小麦の適期刈取によって、赤かび病や穂発芽発生を抑制し、品質向上に努める。</li> </ul>   |
|   | <p><b>大豆</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・5月下旬から順次播種作業が行われている。</li> <li>・6月9日頃に梅雨入りしたため、播種のタイミングが難しくなってくる。</li> <li>・6月上中旬から播種作業の盛期を迎えているが、現時点で早播ほ場の苗立ちは順調である。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・額縁明渠・弾丸暗渠による排水対策に努め、湿害回避を図る。</li> <li>・播種後、大雨が予想される場合は、無理をして播種をせず、天気予報を参考に少なくとも播種後3日間はまとまった降雨が見込まれない日に播種をする。7月上旬頃に播種を終えるようにする。</li> <li>・大豆5葉期(播種後30~40日)頃を目安に中耕培土を行う。</li> <li>・雑草の多いほ場では、中耕培土や茎葉処理除草剤の散布を行う。除草剤散布に当たっては、使用方法、使用時期を確認し、適正に使用する。</li> </ul> |
| 果樹  | <p><b>ナシ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・6月13日の果実発育調査結果は、次のとおり。</li> <li>「二十世紀」：6園の横径平均が36.3mmであり前年比99%(1日遅い)・平年比100%(平年並)</li> <li>「新甘泉」：3園の横径平均が37.7mmであり前年比94%(4日遅い)・平年比96%(4日遅い)</li> <li>・4月に一部地域でアラレ、雹による被害があったが、摘果により被害果を取り除くことができ、平年並の着果量が確保できる見込み。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・気温が上がり乾燥状態が続く場合は適宜かん水を行う。特に幼木にはこまめにかん水を行う。</li> <li>・梅雨期であり、降雨が続く時や豪雨の場合は、排水対策を徹底する。</li> <li>・新梢伸長が停止する頃(6月下旬)から新梢誘引を行い、更新用の側枝を準備する。</li> <li>・黒星病、ハダニ等の病害虫の発生状況を確認し、防除を行う。</li> </ul>   |
|   | <p><b>カキ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・開花中心日(園芸試験場)は、次のとおり。</li> <li>「輝太郎」：5月23日(前年よりも1日遅い、平年よりも1日早い)</li> <li>「富有」：5月24日(前年・平年よりも1日早い)</li> <li>「西条」：5月24日(前年よりも1日遅い、平年よりも1日早い)</li> <li>・摘蕾・摘花作業から、摘果作業へ移っている。また、生理落果も始まっている。</li> <li>・開花中にコマツキムシの被害が見られた園があった。昨年大発生したカメムシは現時点では少ない。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・摘蕾・摘花を実施出来ていない樹・園では、粗摘果を行って大玉果実を目指す。梅雨期の生理落果が落ち着いた後に仕上げ摘果を行う。</li> <li>・気温が上がり乾燥状態が続く場合は適宜かん水を行う。特に幼木にはこまめにかん水を行う。</li> <li>・フジコナカイガラムシは、6月のふ化時期、若齢の幼虫期の防除が重要であり、発生が多い園では防除を徹底する。落葉病、炭疽病の防除を行い、病気の拡大を防ぐ。</li> </ul>   |
|   | <p><b>ブドウ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・6月11日の果実発育調査結果(園芸試験場1園)は、次のとおり。</li> <li>「ピオーネ」：横径は23.0mmであり前年比110%・平年比104%</li> <li>「シャインマスカット」：横径は15.3mmであり前年比85%・平年比88%</li> <li>・多くの園でビニール被覆の遅れ等から、生育は前年よりも5日から1週間程度遅れている。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ハウスの温度管理を行い、高温による着色不良を防ぐ。</li> <li>・病害虫では、べと病、チャノキイロアザミウマ、ハマキムシ類等の発生に留意し、防除を行う。</li> </ul>  |
| 野菜  | <p><b>すいか</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>【ハウス】</li> <li>・出荷は5月28日から開始(昨年5月31日)。階級は3L中心。</li> <li>・一部の品種で急性萎凋症の発生が見られるが限定的。</li> <li>・その他細菌による異常果が昨年より早く発生し、選果による確認を徹底している。</li> <li>【トンネル】</li> <li>・6月12日頃から出荷開始。</li> <li>・一部で菌核病、炭疽病、アブラムシの発生が散見される。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・うどんこ病、アブラムシ、ハダニ類等の防除を徹底する。</li> <li>・トンネル栽培では、長雨や大雨時には褐色腐敗病、疫病の防除を行う。</li> </ul>  |
|   | <p><b>白ねぎ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>【春ねぎ】</li> <li>・7年産 収穫は5月下旬にほぼ終了。例年と比べ抽苔は遅く発生は少ない。</li> <li>・8年産 育苗中～一部定植が開始。</li> <li>【夏ねぎ】</li> <li>・トンネル栽培、無トンネル栽培で出荷中。積雪や低温、強風の影響で出荷はやや遅れ気味。</li> <li>・べと病、ハモグリハエの発生が見られる。</li> <li>【秋冬ねぎ】</li> <li>・適度に降雨があり、生育は順調。</li> <li>・べと病、さび病、ハモグリハエ、アザミウマの発生が見られる。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>【春ねぎ】</li> <li>・高温期の育苗ではハウスの遮光、換気等の高温対策と適切なかん水管理を行う。</li> <li>【夏ねぎ・秋冬ねぎ】</li> <li>・高温期の病害虫防除、夏越し前の計画的な土寄せを実施する。</li> <li>【共通】</li> <li>・水田転換畑では、梅雨期の大雨に備え、通路と明渠を連結するなど排水対策、雑草対策を呼び掛ける。</li> </ul>  |
|   | <p><b>ブロッコリー</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・出荷は終盤になり6月下旬に終了予定。</li> <li>・黒すす病の発生は少なく、コナガの発生が散見される。</li> <li>・5月下旬以降、一部品種で茎の空洞の発生がみられる。(発生状況を調査中)</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・黒すす病、アブラムシ類、鱗翅目の防除を行う。</li> <li>・茎の空洞に対して、施肥や品種の見直しを検討する。</li> </ul>  |
|   | <p><b>らっきょう</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>【東部地区】</li> <li>・根付き、洗いとも、市場出荷は6月17日、加工用は6月20日で集荷を終了。</li> <li>・地上部の早期枯れ上がりの発生は昨年より少なく、収穫量は昨年より多くなる見込み。</li> <li>【中部地区】</li> <li>・出荷は6月14日で終了。</li> <li>・栽培面積の減少と植付時期の高温乾燥による萌芽不良の影響により出荷量は昨年を下回る見込み。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・種球 無病で良質種球を確保し、選別を徹底する。</li> <li>・土壌消毒を徹底する。</li> <li>・中部地区の低収の原因について、今後調査、検討する。</li> </ul>   |
|   | <p><b>トマト(促成)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・4~5段目の収穫中で6月で出荷終了予定。</li> <li>・例年と比べ灰色かび病、コナジラミ等の発生は少ない。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・収穫終了まで、灰色かび病の防除を徹底する。</li> </ul>  |
|   | <p><b>トマト(夏秋)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・定植は6月10日までに終了。</li> <li>・定植が早かった圃場では5月下旬の低温により活着が遅れたが、現在は回復。</li> <li>・病害虫の発生は特になく順調に生育。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・気温が上昇するため、かん水不足とならないように、かん水量に注意を促す。</li> <li>・出荷は、例年同様、7月上旬頃から開始予定。</li> </ul>  |
|   | <p><b>ながいも</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>【ねばりっこ】</li> <li>・概ね順調に生育中で、順次つる管理、追肥などが行われている。</li> <li>・梅雨期となるため炭疽病中心の防除が行われている。</li> <li>【ながいも】</li> <li>・出芽始めて、追肥が行われている。</li> <li>・強風による飛砂で雑草の発生が例年より多く、除草が必要な状況となっている。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・梅雨時期の炭疽病防除を徹底する。</li> </ul>   |
|   | <p><b>アスパラガス</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>【ハウス】</li> <li>・平年より生育がやや遅れ気味となり、春芽の収穫はほぼ終了し、現在は、立茎中～立茎完了のステージとなっている。</li> <li>・平年より収穫量は少ない。</li> <li>【雨よけ・露地】</li> <li>・生育は生産者毎にバラツキが大きく、立茎中～立茎完了のステージとなっている。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・立茎完了後の適切な整枝と茎枯病、アザミウマ等の防除を徹底する。</li> </ul>  |
| <p><b>にんじん</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・出荷(共選)は6月12日から開始(前年6月10日)。</li> <li>・弓浜半島では昨年より生産者、面積が増加。</li> <li>・春の低温や5月の強風(飛砂)の影響で、生育が遅れ気味となっているほ場あり。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・生育が遅れているほ場があり、出荷は7月以降も続くことが見込まれる。(例年6月で出荷終了)</li> </ul>  |   |
| 花き  | <p><b>シンテッポウユリ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>【盆作型】</li> <li>＜東部地区＞</li> <li>・早いもので5月末から抽台が開始し、現在、4割程度抽台している。抽台に伴い、葉色がSPAD値40を切るほ場がある。</li> <li>・葉枯病、ヨトウムシの発生が一部のほ場で見られる。</li> <li>＜中部地区＞</li> <li>・6月中旬から抽台開始。一部で葉枯病が発生しているが、概ね順調に生育中。</li> <li>【抑制ハウス作型】</li> <li>＜中部地区のみ＞</li> <li>・現在育苗中で、葉枚数は本葉1~2枚程度。生育が平年よりも少し遅れ気味の生産者がある。</li> <li>・目立った病害虫は発生していない。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>【盆作型】</li> <li>＜東部地区＞</li> <li>・葉色が薄いほ場で追肥を行うよう指導して。</li> <li>＜共通＞</li> <li>・梅雨時期のため雨の合間を見て、葉枯病、炭そ病の初期防除を徹底する。</li> <li>【抑制ハウス作型】</li> <li>＜中部地区のみ＞</li> <li>・抽台促進のため、定植前に5~10日間苗冷蔵を行う。</li> <li>・6月下旬から定植予定。(ピークは7月上旬)</li> </ul>                           |
|   | <p><b>りんどう</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・極早生種の開花が始まっているが、平年よりも4~5日程度遅い。</li> <li>・6月下旬から出荷(共選)が開始される(選花場開き6/24予定)。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・梅雨時期のため雨の合間を見て、病害虫防除を徹底する。(葉枯れ病、スリップスに注意)</li> </ul>  |
| 飼料  | <p><b>イタリアンライグラス</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一部地域では2番草の収穫が始まっている。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き、2番草の収穫が予定されてる。1番草収量は前年と同程度か前年よりも少ない状況</li> </ul>  |
|   | <p><b>飼料用トウモロコシ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現在、播種作業中。</li> <li>・播種後の生育は概ね順調。</li> <li>・一部地域ほ場でネキリムシ被害がある。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・播種作業は6月末まで続く見込み。</li> <li>・ネキリムシ被害ほ場は、再播種を実施。</li> </ul>  |

【農作業安全について】  
・こまめな休息や水分補給などで熱中症を防ぎましょう。